

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年3月14日(木) 第2委員会室
2. 出席委員 五島誠委員長 前田智永副委員長 赤木忠徳 横路政之 宇江田豊彦 藤木百合子
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 請願紹介議員 赤木忠徳議員 堀井秀昭議員 徳永泰臣議員
7. 傍聴者 なし
8. 会議に付した事件
 - 1 請願第1号 広島県立西城紫水高校高等学校の存続に関する請願
 - 2 その他

午前10時00分 開 議

○五島誠委員長 ただいまより教育民生常任委員会を開会いたします。ただいまの出席委員は6名です。よって、直ちに会議を開きます。本日の会議において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 請願第1号 広島県立西城紫水高校高等学校の存続に関する請願

○五島誠委員長 それでは、本日の協議事項1点目、請願第1号、広島県立西城紫水高校高等学校の存続に関する請願の件についてを議題といたします。本日は、請願についての説明ということで、紹介議員の3名の方にお越しをしてもらって、まずは説明を受けたいと思います。そうした流れになります。よろしくお願ひいたします。それでは、改めて、紹介議員としてお越しをもらった御三方に説明をしてもらえればと思います。

○堀井秀昭議員 今回、請願紹介議員として出席をさせてもらった堀井です。よろしくお願ひします。

○赤木忠徳議員 同じく赤木です。よろしくお願ひします。

○徳永泰臣議員 同じく徳永です。よろしくお願ひします。

○五島誠委員長 それでは、早速ですが、まず、この請願についての説明を受けたいと思います。紹介者の方、お願ひいたします。

○赤木忠徳議員 私のほうから説明します。皆さんに資料をお渡ししていますが、生徒数が激減し、西城紫水高校の未来について、どのような形で生徒募集をしようかということで、校長も学校も、県外の生徒、以前は名古屋からも来たりしていたのですが、それも限界があるようで、広島県では加計高校、加計高校芸北分校、大崎海星高校がこの地域みらい留学の組織に入って生徒を募集しています。過去3年間の入学者の資料をお渡ししていますが、3年間で、加計高校は109名のうち39名が県外、加計高校芸北分校は89名のうち11名が県外、大崎海星高校は99名のうち39名が県外、西城紫水高校は64名のうち2名が県外からという状況で、なかなか県北だけでは学校の維持をする定数にはい

かないということで、この地域みらい留学の組織に入りたいとのことでした。地域みらい留学は、リクルートの初代社長が理事会長になっておられて、そちらの資料にもあると思いますが、メンバーには、島根県教育魅力化特命官の岩本さんや尾田さんなどかなりの方が入っておられます。前文部科学大臣補佐官や海士町町長も。アドバイザーには、小泉進次郎さん、島根県の丸山知事、東京大学の須藤特任教授、映画監督の錦織さん、島根県経済同友会の宮脇さんという方々が国を上げて地域みらい留学という組織をつくって、地方の魅力ある学校に生徒を行かせようとしています。その中で、経費ですが、大変な金額が必要で、まず、登録だけで88万円が必要です。このことについて請願をしたとのこと。費用については、毎年88万円が必要ですが、次年度からの登録費用は同窓会でカンパ活動をして、1年のみ88万円の費用をお願いしたいとのことでした。ことし、県からも200万円のお金が予定されています。それについても、射撃部や神楽部、ドローンを使った教育の魅力ある学校づくりに役立てるために300万のお金があるようですが、それも含めて、資金が足りないということを御理解してもらって、今回の請願に至った経緯です。補足については、2名の議員にお願いします。

○五島誠委員長 補足がありますか。

○堀井秀昭議員 88万円については赤木議員から説明があったので、私が考えていることを中心にお話をさせてもらえればと思います。御存じのように、これからいろいろと厳しい時代が来ると思います。その中で庄原市の体制を維持するためには、社会インフラは大変重要になってきます。その中でも、JR芸備線、県立広島大学庄原キャンパス、市内4つの高校、これらのインフラをきちんと維持していくことをまずしなければならないのだと思います。そうするには、まずは生徒の募集を、県の廃校予定の人数を上回る生徒を確保しないとイケない。その道がまだ残されているということを知りました。そのことをしてもらうことは必要だと認識をして、それで経費が足りない分は市として当然支援をしていくべきだろうと、してみないとイケないだろうという思いです。後からまた質問等にお答えをするので、皆さんに御理解をしてもらいたいと思います。

○徳永泰臣議員 地元としては、これまで西城紫水高校の応援隊を組織されたり、さまざまな住民が有志で活動して高校を応援されてきたし、皆さんが頑張ってくられたと私も感じています。その結果、もう方法とすれば、先ほどから出ている地域みらい留学の制度に乗るという、本当に最後の手段だと思います。この手段が残っている限りは、その可能性を消してしまうのはどうかと思うし、これは個人の思いですが、広島県立大学と同じような考えだと思います。西城紫水高校も、寮がある関係で現在、市外、県外からの生徒もたくさん来ているということで、この生徒がいるかないかが西城町にとっても、地元の活性化や地域づくりに大きな影響を与えるのではないかと考えているので、ぜひ皆さんの御賛同をよろしくお願いします。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 先ほど言った、既に地域みらい留学に入っている県内の学校については、自治体が費用を全額負担していることもつけ加えておきます。

○五島誠委員長 ただいま、紹介議員から、この請願についての説明を受けました。それでは、これから、その説明に対して質疑を求めます。質疑はありますか。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 地域とより近い関係で学校が運営されている。それが利点である。それから、寮の完備もできていると。これを活用して、全国から来てもらった生徒を受け入れることができると請願書に書かれています。寮が完備されていますが、規模とすれば何人くらいまでいけるのですか。

- 五島誠委員長 徳永議員。
- 徳永泰臣議員 60人くらいは大丈夫だと聞いています。
- 五島誠委員長 他にありますか。横路委員。
- 横路政之委員 運営会社が地域みらい留学という名称で運営をしておられます。登録している学校が全校で110校ある。そこでこの運営会社が各高校に声をかけて、ここはこういう学校ですよ、行ってみませんかという中間のコーディネーター役をするような感じで、全国から生徒にいろいろなところに行ってもらおう。そういうことをされている会社なのですか。イメージが湧かない。
- 五島誠委員長 堀井議員。
- 堀井秀昭議員 お配りをしている、紫水高校の件については、という文章から始まる資料の下のほうにあります。私どもがしているわけではないので、多分ですが、登録することによって、この運営会社が年3回くらい説明会を開催すると、1会場ごとに22万円の増額になる。そこには引率者や生徒等も参加をして、みずからの学校のメリット等を発表するような会が並行して開催されて加盟した高校の入学を促していくというやり方なのではないかと思います。
- 五島誠委員長 横路委員、いかがですか。
- 横路政之委員 よくわからない。
- 五島誠委員長 徳永議員。
- 徳永泰臣議員 中間業者というか、プラットフォームと言うのですが、プラットフォーム的な役割を未来塾が担われるのだと思います。
- 五島誠委員長 赤木委員。
- 赤木忠徳委員 88万円以外にもお金が必要です。コーディネーターという制度があって、学校に対して1名以上がいろいろな形でアドバイザーや発信を常に行っていく。これは、55万円と国の制度を利用する中で配置をして、学校の魅力づくりを校外に発信をして留学に結びつけるという形のもので。ですから、55万円で完結するわけではなく、国の制度にも乗っています。
- 五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。
- 前田智永副委員長 いろいろと活動をされたり、とにかく発信をされたり、そういったことに力を入れていきたいと言われているのは重々承知しているのですが、例えば、この110校の登録の中で目にとまる確率が重要だと思います。学校を選ぶところに至るまでにどのような効果があるのかなというのが1つあって、それなら、お金を集める手法として、皆さんで集めるとか、カーブ列車のときのようにたる募金をするとか、クラウドファンディングとかそういった手法は考えられなかったのですか。
- 五島誠委員長 徳永議員。
- 徳永泰臣議員 西城紫水高校を応援するためのたる募金については、昨年の西城町の夏の祭りのときにそのブースを設けて行われました。それで30数万円集まって、しかし、その使途については、ホーユーが倒産、撤退したということで給食補助にほぼ使われてなくなったと。とりあえず今回取り組むためのお金が、恐らく同窓会は頑張っておられるのですが、ことしに限ってはそれが間に合わないという状況なので市にお願いをしたいと伺っています。
- 五島誠委員長 赤木委員。
- 赤木忠徳委員 ことしは、何とか21名が一次募集で試験を受けてくれました。今、二次募集で6名が試験を受けてくれています。ことしは何とかなりそうですが、来年度以降は地域みらい留学を中心に

していかないと保障できるものが何もないとのことなので、そういう形で頑張りたいという学校の思いもあるし、西城紫水高校のすばらしさは、ことしも、小学校、中学校で不登校だった子供が卒業しました。そういう形で、本当に先生方が生徒に寄り添って、学校に行けるように努力をされています。今見ると、110校が登録をされています。平均で8名がいろいろなところに入っているということは、それくらい学校に行けない、静かなところで勉強したいという子が都会にこれだけ多くいるということなので、そのことも含めて、この制度である程度効果が出ているのだと私は思います。

○五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。

○藤木百合子委員 私が校長先生と話をしたときに、ぜひこの地域みらい留学に応募というか、上げさせてほしいと言われていました。西城紫水高校のいいところをいろいろと発信して、来てもらいたい、学校の存続に非常に力を入れたいという思いが伝わってきて、小さな学校であるがゆえに、先ほど赤木議員が言われた、学校に行けなかった子供たちがここに来て、一人一人に寄り添った先生たちの援助によって卒業ができるという役割があるということも言われていました。この88万円がないから登録ができないのだと嘆いておられたので、どの程度効果があるのかは私もよくわからないのですが、イメージ的には、全国に発信して選んでもらえる高校になりたいという思いは伝わってきました。今後、お金の面も地域、同窓会で頑張ると言われています。経費の問題もですが、今後の効果をどのように思われているのか。その辺の経過を、皆さんが西城紫水高校のこういった手法に対して、今後もずっと目を光らせていくという思いはおありですか。

○五島誠委員長 堀井議員。

○堀井秀昭議員 私どもは、必ず効果がとは言いません。それはしてみないとわからないと思います。ただ思うのは、新聞記事等で広島県教育委員会が、生徒数が60人を切り、新入生が20人を切ったら廃校ですという姿勢から、1校当たり最大200万円やアドバイザーをつけて、何が何でも廃校ですという姿勢から何とかしないといけないという姿勢に舵を切っている。庄原市は、学校ではないけれども、大人が対象ですが、新年度予算に庄原いちばんづくり留学という名目で定住促進施策を組む。そういった考え方に立たないともう、人口が減っていくこの過疎のまちではさまざまな組織体が維持できない状況になりつつあると感じます。ですから、できることは県の政策にも乗って、庄原市として、4つの高校をこれからも維持していくためにどういった体制、姿勢をとるかを表明することは、市民に与える影響が大変大きい。同窓会で何とかしろ、だけで済む問題ではない。庄原市として、また、議会として、この部分だけを捉えれば、4つの高校をこれからも残していく努力を継続的に、または単発的にでもしていくのだという姿勢を示す必要がある。その上で、市外、県外からの留学生が年間4人でも5人でもふえてくれれば、それは効果があったということを確認できると思います。県北のほうは大して売りにするものがないですから。ただ、西城紫水高校が思っているのは、クラブ活動、射撃部や神楽部であったり、ドローンの操縦技術の研修といったところに県の補助金等を流用して、1つの特徴のある学校を目指そうという姿勢も出てきています。その辺を合わせた上で、不足する資金を88万円で全部賄えるわけではないのですが、残りは同窓会から、または学校の他の予算から流用をしてでも何とかするという姿勢も見せておられるので、市としても市議会としても、大事なインフラである高校をどのように大事に思っているかという姿勢をきちんと示さないといけないのではないかということで、この請願を委員会に提出しました。あえて請願にしているのです、御理解ください。

○五島誠委員長 横路委員。

- 横路政之委員 説明会が年3回開かれますよね。学校の紹介だと思うのですが、そこでの説明は全部この運営会社に任せるのですか。地元の高校から行ってアピールすることもあるのですか。
- 五島誠委員長 徳永委員。
- 徳永泰臣議員 学校からも行かれるし、現在考えられているのが、まだはっきりとはしていませんが、地元の地域マネージャーにその役割についてもらって一緒に進めていこうということで、学校だけに任せるのではなく自治振興区としても一緒に進めていくと聞いています。
- 五島誠委員長 横路委員。
- 横路政之委員 ほとんどの子供が中学校を卒業したら地元の高校へ行く。ただし、その中には、なじめない子とか、もっと面白いところがないかなという子もいるはずですよ。そういった子を対象に来てもらうというイメージでいいのですよね。
- 五島誠委員長 堀井議員。
- 堀井秀昭議員 表に出して、そういった子供が対象でされるとは思っていません。結果的にそうなるかもしれないですけども。先ほどの説明会にかかる経費の中に引率者2名、生徒2名の予算を含めた上でこれだけ足りないということですから、さまざまな思いを持った生徒が集まってくればいいのかと思います。結果的に、今、横路委員が言われたような環境にある生徒が来てくれる結果にはなるかもしれませんが、それをうたうわけではないと思います。
- 五島誠委員長 赤木議員。
- 赤木忠徳委員 今、我々、教育民生常任委員会でも不登校の問題は大きな問題として取り扱っています。その中で、教育の在り方が、時代が変わったと。それから、将来の目的については、子供たちは自分が興味のある方向に行くということがあって、実はことしから、西城自治振興区が八銚自治振興区と一緒に、テレビ局のTSSが中心となったドローンサッカーというものの組織をつくっています。ドローンサッカーのものを自治振興区が購入して、その中でクラブ活動としてやっていきたいと。それも、西城紫水高校と一緒にやっていきたいと。魅力づくりの方向性をつくっていこうと。そういう形で、町を上げて西城紫水高校に対して協力をしていこうという姿勢が今できつつあります。ぜひともこのことについては成功させたいと思っています。
- 五島誠委員長 他にありますか。前田副委員長。
- 前田智永副委員長 新年度の要望だと思うのですが、時期的に時間がないなという思いがしてならないのです。例えば、予算要望をするには9月、10月ごろにはしないといけないという意識があります。民間の方ももちろんそうだと思います。先ほどの、堀井議員の、あえて請願にしたのだと、議会から出すべきだという思いもよくわかります。例えば、これが12月に間に合わなかったのかというのはいかがですか。
- 五島誠委員長 堀井委員。
- 堀井秀昭議員 それはなぜかというのはわかりません。この登録が1年中いつでもできるのかどうかとも確認はしていませんが、登録の申し込みをするのにも予算措置を持たないとできないと思うので、直近の6月、9月、12月であまり遅くならないように、できるだけ早く補正でも予算を組んであげれば、できるだけ早く登録して活動が始められれば、その効果も来年度に間に合うように生きてくる、そういう体制をつくってあげることも必要なのではないかと思います。
- 五島誠委員長 赤木議員。

○赤木忠徳委員 実は、同窓会の会長の吉方さんに話を聞いたのですが、昨年10月ごろから市長に対してずっと面会をお願いされてきたが、なかなか市長と会えなかった。結局、3月議会に出さざるを得なかった。実際には12月議会に向けて動いておられたのですが、そういう状況でずれたということで、今回出させてもらったのは、3月議会で処理をするということではなく、6月議会に向けて、早めに登録をしないと来年度に間に合わない。当然、来年度の予算では間に合わないので、できれば6月議会までに結論を出して、ある程度市に対して働きかけをしてもらいたいという形の請願です。

○五島誠委員長 他にありますか。よろしいですか。それでは、請願者からの説明についてはこの程度にとどめます。本日は、お越しをしてもらってありがとうございました。最後に一言。堀井議員。

○堀井秀昭議員 見てもらえればと思いますが、西城町内の各種団体の長が連名で請願書を提出しています。西城町の者が紫水の存続にどれだけの熱意を持って、その必要を感じているかということも、ぜひとも御理解をしてもらって、市議会としてなくなるものはなくなればいいのではないかと行ってしまえばそれまでなのですが、存続の努力を重ねることにできるだけ御理解をしてもらいたい、よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

○五島誠委員長 それでは、以上で閉じます。紹介議員の方は御退席ください。暫時休憩といたします。

午前10時38分 休 憩

午前10時39分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開いたします。先ほど紹介議員の3名の方から請願についての説明を受けたわけですが、今後、この議論をどのように展開していくかを協議していかなければならないと思います。委員の皆さんの意見を求めます。宇江田委員。

○宇江田豊彦委員 請願ですから、採択か不採択しかありません。採択したら、採択したことに対してどのように判断するかは執行者の権限で、議会には予算権もありません。今、紹介議員の3名の方から説明があって、地元から強い要望が出されているということは伝わったと思います。その思いを酌んで採択すべきだと私は思います。

○五島誠委員長 横路委員。

○横路政之委員 1回限りということも念を押されました。それだけ切迫しているのかなと思うので、きょう、採択するという結論を出してもいいのではないかと思います。

○五島誠委員長 他にありますか。赤木委員。

○赤木忠徳委員 最終的には広島県の200万円を入れても足りないという状況なので、足りない20万円余りについても、まずは地元でカンパとかそういう形で頑張ってみる。だから、来年度に向けては、地元が責任を持って、プラットフォームに入る資金を調達する動きもされると思うので、その辺も含めて採択をお願いします。もう1つ、ことし東城高校を20名が受験していますが、二次募集はゼロです。最終的には東城高校も大変厳しい状況になる可能性があります。庄原格致高校もそうですし庄原実業高校もそうです。そのときには同じように、1つの学校がなくならないように地元としてある程度意識をしておかなくてはならないと思うので、もしそういう請願が出た場合は、我々は積極的に協力していく姿勢が必要だと思います。最初の請願なので、道を開いてもらいたいと思います。

- 五島誠委員長 他にありますか。藤木委員。
- 藤木百合子委員 先ほど聞けばよかったです。ここに部活動が急に出てきたのは、部活動を充実させて学校のPRをしていくという、地域みらい留学に登録するための部活動充実のためですか。
- 五島誠委員長 今、その段ではないので。もしその件を本当に知りたいのであれば、また機会を持たないといけないので。前田副委員長。
- 前田智永副委員長 不勉強で申し訳ないのですが、私も、今、藤木議員が言われたように、学校側としての県からの補助金をどのように使うのかの思いとか、ここに、次年度からの登録費用は同窓会でカンパをする予定であるとか、不足分については学校側で工夫されると思いますという文言もあります。ここで結論を出すには、いま一つ何か根拠というか、我々は議会として決断をしなければならないので、本当にこれでよかったのか。西城紫水高校についての請願ですから、先ほど赤木議員が言われたように、本市には他の高校もあります。その中で、本当に西城紫水高校だけでいいのか、言った者勝ちのようなやりとりをすることが本当に議会としていいのかということも含め、私はここで採択をするという結論にはならないのではないかと思います。皆さん、いかがですか。
- 五島誠委員長 赤木委員。
- 赤木忠徳委員 それは却下するという言葉と同じです。というのは、私どもが先ほど言ったように、6月議会に向けて執行者側が行動を移すには、ここで結論を出さないと6月には間に合いません。議会が6月に結論を出すということになれば、今度は、9月議会に執行者が補正予算を出すという形になるので、とてもではないですが、来年度のこの活動、地域みらい留学に関して議会側が拒否したという形になりかねません。
- 五島誠委員長 前田副委員長。
- 前田智永副委員長 私は、決して拒否をしているわけではありません。もちろん、西城紫水高校が残ってほしいし、生徒の方が一生懸命学校に通って、よい高校生活を送ってもらいたい。そのために県外からも来てもらいたい。だからこそ、本当に西城紫水高校だけでいいのかということも含めてもう少し議論をさせてもらいたいと言っているのです。
- 五島誠委員長 赤木委員。
- 赤木忠徳委員 今回の請願は、西城紫水高校が緊急事態だということで出たわけです。私も西城紫水高校だけでいいとは思っていません。ですから、そういう緊急事態があれば、当然、その学校に対して寄り添って、他の学校も議会として動くべきだと思います。今回は西城紫水高校から出ているので、西城紫水高校を援助しようということに対してイエスカノーかなのです。他の学校をどうのこうのというのは一切出ていないので。これについては、出てきたときには、またそれなりに真剣に考えるべきだと。他の学校と平等でなければいけないということではなく、緊急事態なので、そこは切離して審議するべきだと思います。
- 五島誠委員長 前田副委員長。
- 前田智永副委員長 決して、公平公正をとるべきという議会の在り方ではないと思います。もちろん、一件一件どのように考えるかを私たちはすべきだと思います。ただ、次に我々も出そうというところを全校するのであれば、それは、予算を通す我々としては、きちんと先を見て想定をしながら考えなければならないのではないかと思います。私は校長に話を伺っていません。その要素をまとめるために、きょうまでにお伺いをするべきだったのかもかもしれません。私の勉強不足だったと思います。ただ、

学校から出ているのであれば、校長の思いであるとか、先ほど、地域マネージャーの方も引率されると思うとの答弁がありました。であれば、自治振興区の思いであるとか、そういったところも重々お伺いをした上で結論を出すべきではないかと思えます。

○五島誠委員長 赤木委員。

○赤木忠徳委員 その思いがあるからこそ、私は校長と面接をしました。自治振興区に行って、ドローンサッカーのことも調べてきました。実はきょう、本来なら、請願者の代表を含めて呼ぶべきだったのですが、それをされなかった以上、我々が調べるより手がない。私は高校に行ったので、当然そういう話も聞いています。ですから、私は、今の状況が6月以降にどんどんおくれることによって来年度の補償がなくなるという危機感があるので、請願に関しては早めに、当然、採択すべきだと強く思うし、先ほど言ったように、よそから出てきたら、当然それなりに慎重審議をして、議会として寄り添っていく姿勢は崩すべきではないと思っています。

○五島誠委員長 今、議論が平行になっているのですが、要は、きょう結論を出すかどうか。きょう、説明を受けて、質疑応答を経て、これで採択、不採択を決めようという意見と、判断するのにもっといろいろな方の話を聞きたいという2点があります。赤木議員が言われるように急ぐ気持ちは当然わかります。ただ、協議が不足していると感じている状態で結論を出すことについては委員長としても懸念を持っているので、急ぐのであれば、本定例会中に再度そうした場を持つ努力は当然しなければならぬと思います。ただ、それ以降のことになると、そこでどうかという部分もあります。その辺はいろいろな調整、協議が必要になってくるのでなかなか難しいかと思えます。暫時休憩とします。

午前10時52分 休 憩

午前11時27分 再 開

○五島誠委員長 休憩前に引き続いて会議を再開いたします。今後の協議の日程について休憩間で協議をしました。結論としては、3月18日、月曜日、10時から本委員会を再開し、その際、請願者である西城紫水高校高等学校同窓会の会長にお越しをしてもらって、改めて説明なり思いを聞かせてもらう機会を持ちたいと思います。そのようによろしくお願いいたします。それでは、協議事項1点目、請願第1号についてはこの程度にとどめます。

2 その他

○五島誠委員長 続いて2点目、その他の項をお持ちの方がおられればお願いいたします。ありませんか。なしということで、その他の項を閉じます。以上をもって教育民生常任委員会を閉会いたします。

午前11時29分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長